

■神田孝平 洋学者、啓蒙思想家、官僚。西洋の教育思想や制度の輸入に努め、地租改正に影響、人類学会まで始めた。

かんだたかひら

富籤流行・・・1830＝ 美濃国不破郡岩手村で、旗本竹中氏の臣孟明の子に生まれる。

叔父に「蘭学実験」の著者柳溪がいる。

大塩平八郎乱1837＝ 7歳：

蚕社の獄・・・1839＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝15歳：

はじめ京都に出たが、

・・・1848＝18歳：

北斎没・・・1849＝19歳：江戸に移り、

塩谷宕陰・安積良斎につく。

ペリー来航・1853＝23歳：_ペリー来航を機に蘭学に転じ、

_杉田成卿、伊東玄朴、手塚律蔵に学んで、

蕃書調所・・・1857＝27歳：

桜田門外変・1860＝30歳：

生麦事件・・・1862＝32歳：_蕃書調所教授出役となり、

_開成所寄宿寮頭取・同教授並・同頭取を歴任。主に算術と代数の初歩など数学を教授。

薩長同盟・・・1866＝36歳：

明治維新・・・1868＝38歳：*維新後、徴士として新政府に出、それまでの授業内容を「数学教授本」として刊行。また「経済小学」「和蘭政典」を訳刊、西洋経済学を紹介。

戊辰戦争終・1869＝39歳：議事体裁取調御用掛、公議所副議長、集議院判官、権大内史などを経て、

廃藩置県・・・1871＝41歳：_兵庫県令となる。その間、「性法略」、

学問のすすめ1872＝42歳：「和蘭司法職制法」「和蘭州法」など、幕末以来関心を深めていた西洋の政治・社会諸制度についてさらに調査し翻訳紹介、日本への具体的適用の検討と提起に努め、制度通として知られ、「田租改革建議」は、

*地租改正に大きな影響を与える。{明六社}には通信員として参加、啓蒙的論稿を{明六雑誌}に投じる。

明治6年政変 1873＝43歳：*地方官会議には幹事長に選ばれ、民会問題に対し、現実をふまえた積極論を主張、

三つの反乱・1876＝46歳：*元老院議員にかわるも、終始、開明的視点を失わなわず、

西南戦争・・・1877＝47歳：東京数学会社社長に就任、_文部少輔、

琉球処分・・・1879＝49歳：「経世余論」「頼山陽実甫帖」刊行。_東京学士会院会員に選ばれ、

・・・1880＝50歳：数学会社社長を辞任。_元老院議員に再任、

明治14年政変1881＝51歳：

新体詩抄・・・1882＝52歳：以後3年、_東京学士会院副会長、

_考古学へも関心を寄せて、

秩父事件・・・1884＝54歳：「日本石器時代図譜」刊行、

帝国大学始・1886＝56歳：「日本大古石器考」刊行、

国民之友始・1887＝57歳：_東京人類学会初代会長に就任、

帝国憲法発布1889＝59歳：

帝国議会始・1890＝60歳：翌年にかけて_貴族院議員となる。

郡司千島探検1893＝63歳：

日清戦争始・1894＝64歳：

日清戦争終・1895＝65歳：*東京人類学会会長を辞任して、

子規句歌革新1898＝68歳：_没した。

前記のほか、訳書に「和蘭王兵学校捉書」「星学図説」、著書に「世事要言」がある。